

学校運動部活動の戦後史（上）

——実態と政策の変遷——

中澤 篤史

本研究の目的は、中学・高校の運動部活動の戦後史を、終戦直後から2000年代までを対象に、実態・政策・議論の変遷と関係に注目しながら記述することである。

日本の学校教育には運動部活動がある。学校は教科教育だけではなく、教育課程に含まれない活動でありながら、運動部活動としてスポーツの機会も用意する。教師は授業だけでなく、たとえばスポーツの経験が無い場合でさえも、運動部活動の指導や運営を担当する。このように日本では、一見すると教育とは無関係に思われるスポーツを教育活動として編成してきた。しかし、運動部活動が日本ほど大規模に成立している国は、他に無い。つまり、運動部活動の大規模な成立状況が示唆しているのは、スポーツと教育の日本特殊的関係である。本研究は、そうしたスポーツと教育の日本特殊的関係がいかにして構築されてきたのかを探究する一環として、学校運動部活動の戦後史を描く。

本研究前半部分にあたる本稿は、目的と方法について述べた後、実態と政策の変遷を記述した。